

平成 29 年度事業報告書

1 平成 29 年度事業の概要

平成 29 年度は、公益目的事業、公園収益事業とも引き続き積極的に事業を展開した。

公益目的事業においては、地球温暖化対策、生物多様性の確保、良好な生活環境や地域交流、防災等の面でますます重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画等に基づく活動を推進した。

公 1 事業(都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業)では、都市緑化に関する各種事業、公園を生かした緑のイベントの開催等を行った。29 年度は新たに、市内各地の緑のボランティア団体の活動を支援するための京都市緑のボランティアセンター窓口運営を含む京都市緑のまちづくり支援業務を受託した。梅小路公園及び宝が池公園子どもの楽園の指定管理事業では、利用者の利便性・快適性確保のための取組みを行った。特に梅小路公園においては、平成 31 年春の開業を目指す JR 新駅の設置工事やこれに対応する公園内広場等の再整備が進められ、京都駅西部エリアのエリアマネジメントの気運が高まりつつあり、本協会も、京都水族館、京都鉄道博物館等の公園施設管理者、エリアの企業・団体、及び京都市等との連携を強め、公園周辺地域の活性化につながる各種事業を行った。

公 2 事業(京都の庭園の保全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業)では、日本庭園の良好な保全管理や京都の庭園文化の情報発信等を行った。

公園収益事業は、荒天等による利用者減を反映した利用料金及び販売手数料等の収益が前年実績を下回った。

法人業務においては、評議員会を 1 回、理事会を 2 回開催した。また、京都市外郭団体自律化の取組を財務面で引き続き進め、指定管理業務以外の受託事業の拡大に努めた。経常収益計は、利用料金及び販売手数料等の減少が響き前年度を下回ったが、経常費用の抑制により、当期一般正味財産増減額は 6 期連続で黒字となった。

2 平成 29 年度の事業実施状況

I 公益目的事業 決算額 198,127 千円 (予算額 205,288 千円)

I-1 (公 1) 都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額 177,480 千円 (予算額 183,716 千円)

京都の都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営する公園等を拠点として、各地域において、講習会、イベント、広報その他様々な事業を行った。

(1) 緑の学校と人材育成

緑化に関する各種の講習会を実施し、緑化リーダー((6) イ関連)などを育成する「緑の学校」を運営した。

ア 園芸関係の講習会等

a 園芸講習会

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 25 人，後期 24 人 ・参加者数 6 回計 141 人
- ・受講料 前期 3,000 円，後期 3,000 円
- ・各回の実施内容

	回	開催日	実施内容
前期	第 1 回	4 月 27 日	夏・秋草花と夏野菜を育てる
	第 2 回	5 月 18 日	ハンギングバスケットづくり
	第 3 回	6 月 22 日	乾燥に強い植物と草花の夏越し
後期	第 1 回	10 月 5 日	秋咲き草花とカラーリーフ
	第 2 回	11 月 2 日	秋植え球根と冬咲き草花
	第 3 回	12 月 14 日	クリスマス飾り

(28 年度は計 6 回実施。)

b 季節を楽しむ園芸教室

園芸で四季を楽しむ単発の教室・講習会・体験コーナーを開いた。

教室名	開催日	講師	受講料	参加人数
クレマチス教室	4 月 29 日	藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	1,000 円	20 人
フジバカマを使った染物教室	9 月 26 日	谷口睦子（西山野遊び工房）・藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	2,500 円	17 人
多肉植物の寄せ植え体験（下京区ふれ愛ひろば）	11 月 12 日	梅小路公園花と緑のサポーターの会	500 円	38 人
クリスマスに飾るテラリウム教室	12 月 20 日	烏賀陽百合（ガーデンデザイナー）	3,000 円	19 人

(28 年度は 4 回実施。)

c 地域での出張園芸講習会等

まちなみ緑化モデル事業((5)ア)や行政からの要請等により、出張講習会等の主催又は講師の派遣を行った。

場所／テーマ	開催日	講師	参加人数	備考
高倉小学校（中京区）／ヒオウギ講習会	5 月 23 日， 10 月 16 日	藤井肇・秦賢二（緑化リーダー）	計 138 人	中京区役所主催
島原のぞみデイサービス（下京区）／植替え講習	5 月 25 日	寺田裕美子， 駒井修（協会）	通所者 16 人 園芸セルフケア受講者 6 人	まちなみ緑化支援
中京区役所／エディブルプランツの寄せ植え	10 月 27 日	烏賀陽百合（ガーデンデザイナー）	26 人	中京区役所主催

朱雀第四学区・朱雀第四小学校(中京区)／京エコライフプログラム・グリーンUPプロジェクト	11月6日, 1月19日	駒井修, 伊藤信太郎(協会)	計100人	京エコロジーセンター主催, まちなみ緑化支援
菊浜連合会(下京区)／高瀬川・正面公園周辺の緑化(植替え, ワークショップ)	11月7日, 3月13日	駒井修(協会)	55人	まちなみ緑化支援

(28年度は6箇所を実施。)

イ 花壇づくりの講習会

a 園芸セルフケア教室

園芸療法士の指導により、植物の手入れを通して自身の健康チェックと生活リズムを整える教室で、梅小路公園の花壇等で27年度より開催。植物名、四季を通じた植物管理を学ぶとともに参加者間の交流を図った。

- ・講師 花と緑の普及員 寺田裕美子
- ・開催日 毎週木曜日 計48回
- ・受講料 500円(年間)
- ・受講者 16人
- ・参加者数 のべ383人

b 季節を彩る花植え教室

園芸グループ等が、自らの地域・施設等で作るコンテナ花壇等の花飾りのデザイン、植付け、管理までの流れを学んだ。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 参加者数の124人
- ・受講料 2,000円
- ・開催日 5月30日, 6月13・20日, 7月11日, 8月1日, 9月5日

(28年度は地植え花壇を中心とする「まちを彩る花植え教室」計6回。)

ウ 家庭の庭づくり講座

おもに家庭などでの身近なガーデニング(庭づくり)について、計画の立て方から造成、植栽、維持管理、庭での楽しみ方まで、講師との対話形式で学んだ。

- ・講師 花と緑の普及員 野杖勝俊
- ・受講者 前期11人, 後期17人
- ・参加者数 12回のべ153人
- ・受講料 2,000円

	開催日	実施内容
前期 (夏～秋)	6月30日, 7月14・28日, 8月4・25日, 9月8日	家庭の「庭づくり」, 自宅の庭を考える, 庭を造って植える, 庭木の手入れ(剪定), 草花の手入れ, 庭の楽しみ方
後期 (冬～春)	1月26日, 2月9・23日, 3月9・16・30日	家庭の「庭づくり」, 自宅の庭を考える, 庭を造って植える, 庭木の手入れ(剪定), 草花の手入れ, 庭の楽しみ方

(28年度は12回実施。)

エ 樹木の剪定教室

講義と実習を通じ、家庭の庭など身近な場所で活用できる樹木剪定の基礎を学ぶため

の講習会(29年度新規)。応募が多数に上り、各回午前・午後の2回開催した。

- ・参加費 1,000円
- ・講師 花と緑の普及員 野杵勝俊
- ・日程・内容等

回	開催日	内容	参加者数
第1回	12月1日 午前/午後	庭木と剪定の基礎知識	34人/29人
第2回	12月8日 午前/午後	剪定の基本と整姿	33人/30人
第3回	12月15日 午前/午後	花木等の剪定実習	29人/27人

オ 庭園ガイドボランティア養成講座

庭園文化講座(Ⅰ-2ウ)の受講修了者等を対象に「朱雀の庭」及び「いのちの森」のボランティアガイドを募集、養成するため、庭の成り立ちや特徴を学ぶ研修を行った。

- ・開催日・内容(講師) 3月3日 朱雀の庭(吉田昌弘), 3月10日 ガイド見学・ガイドダンス, 3月17日 いのちの森(いのちの森モニタリンググループ田端敬三)
- ・参加者 のべ11人

カ 緑の散策ツアー

市内各地のまちなかの緑のスポットを訪ね歩き、緑にかかわる歴史文化や快適な生活環境づくりを考えるツアー、及び、庭園見学に絞った散策ツアー(京の庭めぐり)を造園家等の協力により開催した。

- ・参加費 3,500円(入園料等含む。)

回	開催日	コース/講師	参加者数
第1回	5月24日	涉成園~豊国神社~智積院/吉田昌弘(協会理事, (一社)日本ランドスケープコンサルタンツ協会顧問), 北山利通(北山都乾園代表取締役)	22人
第2回	10月25日	仁和寺~等持院/吉田昌弘(協会理事, (一社)日本ランドスケープコンサルタンツ協会顧問)	17人

(28年度は4回実施。)

(2) 自然環境に関する講習会・体験活動

ア 体験型講習会, 自然観察会等

自然観察会, プレイパークでの子ども及び家族向け自然教室等の充実を図った。

a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ, 自然の仕組みを理解していただくことを目的として, ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会(森本幸裕代表)いのちの森モニタリンググループ, 協会職員等。

① 月例等定期の観察会

- ・参加料 無料(別途いのちの森入園料200円。グリーンフェア時は無料。)
- ・各回の実施内容(計14回・参加者計190人)

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月15日	植物の観察1	10月1日	グリーンフェア観察会
5月3日	グリーンフェア観察会	10月21日	植物の観察6

5月20日	植物の観察2	11月18日	紅葉する植物
6月17日	きのこの観察	12月16日	植物の観察7
7月15日	植物の観察3	1月20日	野鳥の観察
8月19日	植物の観察4	2月17日	公園管理
9月16日	植物の観察5	3月17日	植物の観察8

(28年度は14回実施。)

- ・「いのちの森20周年記念誌」(兼2015年度報告書)の発行(10月1日) 京都ビオトープ研究会発行(緑化協会協力)。開園20年の成果、関係者の寄稿、関連年表、文献リスト、今後の方向性の検討意見等を掲載。部数200部、研究会HPで公開。

② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

子ども向け自然観察会を24年度からシリーズ化して開催。いのちの森周辺の季節の移り変わり、植物の生長を見守り、収穫して利用する体験を通して自然に親しむ機会をつくった。

- ・講師 いのちの森モニタリンググループ(田端敬三・北川ちえこほか)、稲垣文拓(乙訓の自然を守る会)、小谷尚江(協会プレイパークリーダー)
- ・対象 小学生(一般公募、公園周辺小学校・児童館)・受講料1,200円(6回分)
- ・各回の実施内容(参加者数 6回のべ137人。保護者除く)

回	開催日	内容
第1回	5月20日	田植え・ヒオウギ植替え
第2回	6月17日	クリソウ等の植栽・フジバカマ定植
第3回	7月15日	ヒオウギ観察
第4回	8月5日	工作体験
第5回	9月16日	稲刈り体験・フジバカマ飾り
第6回	10月14日	脱穀体験

(28年度は6回実施。)

b 宝が池公園自然あそび教室

① 子どもの楽園周辺の自然を生かした教室等

自由な遊びを中心とする通常のプレイパーク活動((7)エ)とは別に、子どもの楽園とその周辺の自然環境を生かし、遊びながら学べる教室を実施。自然観察のほか、クラフト、自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラムを行った。

- ・開催日 原則第1・第3土曜日
- ・実施回数 計28回(28年度は27回実施) ・のべ参加人数846人
- ・特別プログラム ツツジに染まる宝が池ハイキング、水辺の生き物発見隊、ナイトウォッチング～セミ羽化観察～、縄文式土器づくりに挑戦((公財)京都市埋蔵文化財研究所協力)、夏休みキャンプ、宝が池に水鳥に会いに行こう等

② 京都工芸繊維大学との共催による観察会

- ・テーマ「秋の虫へGO!子ども自然観察会～自然のふしぎ発見」
- ・開催日 9月10日 ・場所 京都工芸繊維大学15号館、屋外
- ・講師 齊藤準(京都工芸繊維大学准教授)、京都北山やままゆ塾
- ・参加者 31人(小学生と保護者)

イ 環境学習養成講座

体験型の環境学習の活動を支える人材（リーダー）の養成を、学習会や子ども向けプログラムの実践を通じて行った。

a 宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」をテーマに、低利用、ナラ枯れ、シカ害等により次世代の植物が育たない危機的な状況にある森の問題を、座学とフィールドワークで多面的に考える連続学習会。このうち第6回は、京都市都市計画局、産業観光局、建設局の3局が毎年3月に行う普及啓発事業「出会いでつなぐ、京都三山の森づくり」の北山エリアの取組として実施した。

- ・参加費 (6回分) 1,500円(一般)、1,000円(中高生) / (1回分) 300円(一般)、200円(中高生)
- ・場 所 京都府立大学、京都工芸繊維大学、上高野防災会館等
- ・参加者 のべ127人

回	開催日	内 容 / 講 師 (敬称略)
ガイダンス	6月25日	里山ってなんだろう？いま里山をとりまく問題～人の営みで育まれる生物多様性の森～ / 鎌田磨人(日本生態学会 / 徳島大学教授)、野田奏栄(緑化協会 / (公社)大阪自然環境保全協会)
第1回	7月16日	水域の生物からみる宝が池の環境 / 竹門康弘(京都大学准教授 / 深泥池水生生物研究会)
第2回	8月26日	豊かな森を次世代へつなごう～協働による森づくり～ / 清水敏(池田みどりスポーツ財団 緑のセンター所長)、田中和博(京都府立大学教授)
第3回	9月24日	宝が池の原風景と森の環境基盤～多様性をはぐくむ湿地環境 / 土壌の力～ / 富田啓介(愛知学院大学講師)、村下七海(京都府立大学生)
第4回	10月29日	これからの森林再生～シカ対策の試行からみえてきたこと～ / 長島啓子(京都府立大学教授)、高柳敦(京都大学講師)
第5回	12月17日	森の変容とくらしの安全～人がかかわり守る森のあり方を考える～ / 齋藤準(京都工芸繊維大学准教授)、柴田昌三(京都大学教授)
第6回	3月10日	宝が池界隈の歴史からみる森とくらし～山城跡をめぐる歴史ウォーク / 吉崎伸(京都市埋蔵文化財研究所)

(平成28年度は6回実施)

(3) 花とみどりの相談所(緑の相談所) 運営

ア 相談業務

植物、園芸等に関する無料相談を梅小路公園で行った。また、地域団体等からの要請により、公園外への出張相談等も行った。

- ・相談日 毎週2日(水曜日、土曜日)及びイベント等での出張相談
- ・時 間 午前10時～午後4時まで(面談又は電話による。)
- ・相談員 原田弘種、野杵勝俊(定例)、花と緑の普及員・緑化リーダー等(出張相談)
- ・実 績 相談日数 115日

相談件数(内容別) 1,261件(うち面談による相談62%) **25%増**

(平成28年度は件数1,012件、うち面談による相談53.4%)

イ 京都ゆかりの希少植物の保全・普及

各地の団体・個人と連携し、京都ゆかりの希少植物を保全・普及する活動を継続して進め、すそ野を広げていくため、当協会内において希少植物の栽培保全を行うとともに、ネットワークづくりや他団体の支援に取り組んだ。

a 京都市「京の生きもの文化協働再生プロジェクト認定制度」に基づく技術指導

京都市（環境管理課）の依頼を受け、平成 29 年度に新たな認定を受けた団体に対し、技術指導等を行った。また、過去に認定され、充実・拡大を目指す活動についても相談を受けた。

① NPO法人国境なき環境協働ネットワーク

大晦日から元旦にかけての八坂神社「をけら詣り」で使われる希少植物オケラについて、地域を中心とした保全・育成と普及啓発を目指す活動（第 17 号認定）の立ち上げに協力した。

- ・キックオフセミナー（11 月 26 日） 内海貴夫ネットワーク理事長、森壽雄八坂神社宮司、門川大作市長、森本幸裕本協会理事長、地元 6 団体（弥栄自治連合会、東山区役所、市立東山開晴館（小中学校）、祇園商店街、祇園甲部お茶屋組合、祇園東お茶屋組合）等が参加し、をけら詣りの歴史やオケラの特徴を知るセミナー。

② 認定後の活動相談

（株）ジェラン（SCREEN ホールディングス）、（株）島津製作所、（株）日新電機

b 施設・環境イベント等での普及啓発活動

- ・市役所ロビー

祇園祭期間中の高倉小学校（中京区）のヒオウギ（自生種）展示に協力／都市緑化月間（10 月）行事の建設局みどり政策推進室のポスター展示に参加（広報誌紹介、フジバカマ実物展示）

- ・京都駅ビルでの希少植物展示

緑化展示施設「緑水歩廊」で希少植物を展示するとともに、関連する生活文化を説明するパネル制作に協力。フジバカマ（9 月 25 日～10 月 10 日）、キクタニギク（11 月 15～11 月 29 日）

c 東山における「キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ」事業への協力

「京都伝統文化の森推進協議会」（事務局・京都市林業振興課）が、平成 30 年 3 月 17 日（土）、高台寺山国有林内の菊溪川支流で「キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ～植栽活動」を実施（2 回目）。これに先立ち、キクタニギクに関する情報の提供、K E S 生物多様性プログラム参加企業・団体を通じた苗の確保などの協力を行った。

d 京都学園大学連続セミナー「和の花と生き物文化の再生」（Ⅱ期）の共催

生育環境の変化により絶滅の危機に瀕している京都の在来植物と関連する文化を再生するため、担い手の交流と連携、産公民学連携を推進するため、京都学園大学が開催する連続セミナーの 28 年度に続く 2 期目。当協会は共催し、企画等に協力した。

- ・主 催 京都学園大学 ・共 催 （公財）京都市都市緑化協会
- ・場 所 京都学園大学京町家キャンパス「新柳居」（中京区）
- ・参加費 無料 ・参加者 6 回計 170 人

回	開催日	実施内容／話題提供者（敬称略）
第 1 回	5 月 6 日	和の花展見学研修／藤井肇（大原野森林公園森の案内人、協会緑化リーダー）、秦賢二（園芸家、協会緑化リーダー）

第2回	5月30日	雨庭のつくりかた／角飼久美子（建築家），駒井修（造園デザイナー，協会花と緑の普及員）
第3回	6月16日	「和の花」セラピーの可能性／寺田裕美子（園芸セラピスト，協会花と緑の普及員），佐藤正吾（本協会職員）
第4回	6月30日	お香と植物／畑正高（香老舗松栄堂社長），山本淳子（京都学園大学教授）
第5回	7月29日	巨椋池の蓮とオニバス／澤井健二（摂南大学名誉教授），今西亜友美（近畿大学准教授）
第6回	9月1日	企業緑地とみんなで取組む「和の花」保全／市河三啓（株島津総合サービス業務部課長），渡邊聖子（京都市環境政策局 生物多様性係長）

ウ KES生物多様性プログラムへの参画

KES（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）の認証登録を行う特定非営利活動法人KES環境機構が26年度から実施している生物多様性プログラム「エコロジカルネットワークプロジェクト」に参画した。希少植物の生息域外保全のほか，自社敷地緑化，地域活動を環境改善目標に取り入れており，計220団体が参加した。

a 取組説明会（京都工業会館）

- ・開催日等 5月26日 登録81団体92人等計102人
- ・説明者 京のアジェンダ21フォーラム、京都市環境管理課、本協会、特定非営利活動法人葵プロジェクト、京都駅ビル開発（株）、KES環境機構担当者

b 栽培講習会（京都工業会館）

- ・開催日等 6月2日（金）栽培講習会第1回 70団体79人
6月16日（金）栽培講習会第2回 54団体68人
- ・講師 特定非営利活動法人葵プロジェクト、藤井肇・秦賢二（本協会緑化リーダー）
- ・内容 フタバアオイ、フジバカマ、ヒオウギ、キクタニギク、オミナエシ、カワラナデシコ、アヤメ、ワレモコウの計8種の栽培管理について講義及び実習指導。

エ 公益社団法人日本植物園協会への加入

全国の公設・私設の植物園等で作る（公社）日本植物園協会に，花とみどりの相談所（緑の相談所）を運営する団体として28年度から正会員として加入し，同協会も取組む希少植物保全等に関する情報交換，ネットワークに参画した。また，京都市内の会員植物園には，本協会の「春の和の花展」「藤袴と和の花展」の展示，『京のみどり』85号の特集記事に協力をいただいた。

- ・西日本多様性保全拠点園交流会 8月26日 武田薬品工業（株）京都薬用植物園
- ・在京滋地区植物園情報交換会 2月15日 日本新薬（株）山科植物資料館

(4) 緑のイベントの開催及び支援

緑に関連する団体や京都新聞社，KBS京都等のマスメディアとの連携を図りながら，植物，緑の文化，公園緑地の多面的な大切さを訴える様々なイベントを開催した。

ア みどりの月間，都市緑化月間等のイベントの開催，協力

みどりの月間（4～5月），都市緑化月間（10月）に，「守ろう！古都の自然」キャンペーンとして，グリーンフェア春／秋，春の和の花展，藤袴と和の花展などの様々な

イベントを実施した。

a 梅小路公園グリーンフェア 2017 春／秋

爽やかなみどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ、安らぎ、にぎわいを多くの市民に感じていただくために、春と秋の2回実施した。

	開催日	天候	来場者数
春	5月3日(水・祝)	晴	41,500人
	5月4日(木・祝)	晴	50,000人
秋	9月30日(土)	晴	21,000人
	10月1日(日)	晴	24,500人
計			137,000人

※春は「アースキャラバン 2017」及び「京の花物語 in 梅小路公園」と同時開催、秋は「市民ふれあいステージ」と同時開催。

b 春・秋の和の花展

自然保護団体や園芸家の協力により、絶滅危惧種を含む山野草、古典園芸植物等の屋外展示、イベントを行い、身近な自然環境を守る大切さを訴えた。

① 春の和の花展(第8回)

- ・期間 4月22日～5月7日(14日間) ・会場 梅小路公園朱雀の庭、緑の館
- ・京都三山の絶滅危惧種を含めた和の花等約173種297鉢を展示。
- ・イベント 西洋と日本のクレマチスを学ぶ教室、ガイドツアー等
- ・企画展示 薬用植物としての和の花、フタバアオイとカンアオイ属の植物
- ・入場者数 1,909人

② 藤袴と和の花展(第9回)

京都放送(KBS京都)の「守ろう!藤袴プロジェクト」をきっかけに平成21年度から開催。府絶滅寸前種であるフジバカマを約300鉢を庭園内の浅池に展示、京都府レッドデータブック掲載の種を含めた山野草等約178種250鉢を展示した。また、休耕田でフジバカマを保全栽培している水尾自治連合会(右京区)、なんやかんや「大原野」推進協議会、市街地で栽培展示を行っている深草藤袴の会(伏見区)、御所藤袴の会(上京区)とも広報等の協力を行うとともに、KESプロジェクト((3)イa参照)参加企業団体の育成鉢の展示も行った。

- ・主催(共催) 緑化協会・(株)京都放送
- ・期間 9月23日～10月9日(17日間) ・入場者数 2,832人
- ・イベント KBS京都ラジオ公開生放送(10月8日)、香老舗松栄堂「水尾より届いた藤袴の香り、渡りの蝶アサギマダラなんでもコーナー(BVアサギマダラの会)、山野草展示即売会、生け花飾り体験、和の花展ガイドツアー
- ・企画展示 企業・団体のフジバカマ展示、薬用植物としての和の花
- ・連動企画 京都駅ビル「緑水歩廊」での藤袴展示、花いっぱいのフジバカマ鑑賞会(水尾)、深草を藤袴で飾ろう、なんやかんや「大原野」フジバカマ祭り、藤袴祭り(寺町通、丸太町通の一部区間の沿線等)

c 梅まつり in 梅小路

梅小路公園内にある梅林をPRし、植物に親しんでいただくため開催。期間中、床几を置くなどして、ゆっくり鑑賞していただけるよう工夫した。

- ・期間 2月24日～3月4日
- ・イベント 梅の剪定教室(参加者42人)

d 京都まちとみどり写真コンクール

緑あふれるまちづくりを推進する第33回「京都まちとみどり写真コンクール」を共催した。計404点の応募があり、このうち30点が入賞・入選した。入賞・入選作品は梅小路公園緑の館で展示された後、山城総合運動公園、京エコロジーセンター、けいはんな記念公園、宇治田原町総合文化センター、京都府庁の府内5か所で展示された。

- ・主催 京都府都市計画協会主催
- ・共催 京都府、京都市、(公財)京都府公園公社、本協会、(一社)京都造園建設業協会
- ・表彰式 9月30日 梅小路公園緑の館

e 地域イベントへの参加

区民まつり等に市民団体と協会が共同で出展、または出展を支援し、園芸体験コーナーを設ける等の活動を行った。

イベント名	開催日	場 所
堀川・桜まつり	4月2日	堀川河川敷(一条戻橋～押小路橋)
下京区ふれ愛ひろば	11月12日	梅小路公園

イ 「みどり」に関連した教室等の開催

a 梅の実採り体験

利用者に愛されている梅林内のウメの実の盗難防止を兼ね、事前に告知を行い、子どもを含め、梅の実採りを体験していただいた。

- ・開催日 5月30日 ・参加者数 200人
- ・実施協力 梅小路公園花と緑のサポーターの会

b クラフト教室等

- ・クリスマスリースづくり 12月9日
指導 梅小路公園花と緑のサポーターの会 参加者 9人 参加費 500円

(5) 市街地緑化事業

ア まちなみ緑化モデル支援事業

緑視率の向上及び町並み修景を図るため、和の花や和のイメージの容器(鉢物・プランター)を、施設、住宅の軒下、マンション・事業所入口等の敷地に設置し、管理していただく団体への技術的支援等を行った。(1)アc参照)

a 島原のぞみデイサービスの沿道(下京区)

通りに面した「花矢来」、ハンギングバスケット等の植替え・管理の指導。

b 菊浜学区「花回廊づくり」(下京区)

六軒橋東詰、高瀬川正面公園、家屋軒下のコンテナ花壇の植替え、高瀬川沿いの街路樹帯への植栽と管理の指導。

c 朱雀第四学区京エコライフプログラム(中京区)への協力

通りに面したコンテナ花壇の植付指導、小学校に隣接する西ノ京公園の花壇づくりへの協力

イ 御池通スポンサー花壇巡回管理業務

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により四季の花で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業(花壇基数102基)で、沿道の事業者・市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助、ニュース発行、ボランティア募集、講習会の実施等の普及啓発を行う業務を受託した。祇園祭に合わせてダルマヒオウギを植えるな

ど、京都らしさや季節感の演出に努めた。((6)ア a 参照)

- ・全面植替え 4 回，巡回管理補助のべ 136 回（全区間相当 56 回）
- ・ニュース（スポンサー花壇だより）発行 6 回，アンケート調査 1 回
- ・技術講習（安全対策，植付け・切戻し方法等） 7 月 26 日 梅小路公園緑の館 20 人

(6) 緑の団体支援事業

ア 緑のボランティア団体の活動支援(京都市緑のボランティアセンター)

緑のボランティア団体の活動を支援し，情報交換を促し，市内各地で地域主体の緑化を推進するため，京都市緑のまちづくり支援事業を受託し，梅小路公園緑の館内に「京都市緑のボランティアセンター」専用窓口及び専用電話を設置し，30 年 1 月 5 日より運営をスタートした。これまで本協会が支援してきた有志団体，自治会，企業・学校内サークル等のほか，京都市の公園愛護協力会，街路樹サポーター等にニュースレター，『京のみどり』等を通じて利用を呼び掛けた。また，京都市が中心市街地で進める，地域で育む和の花モデル花壇の施工，技術支援，巡回等を行った。

a 支援事業 1～3 月実績

相談件数 16 件，団体情報作成・展示 7 件，ニュース発行 2 件，和の花モデル花壇（龍池・初音学区）出張相談・講習 5 件，巡回・維持管理補助 9 件

b 支援事業受託以前の緑化支援(例)

- ・すうじん安全安心フラワー事業（京都府下京警察署，崇仁自治連合会）
防犯を兼ねた花壇育成活動の植替え作業 7 月 3 日，11 月 21 日
- ・堀川みどりフェス（主催・堀川みどりのまちづくり会） 11 月 23 日
本能学区（中京区）内のビル周辺の緑化展示，ライブ，カフェ等のイベント。

イ 「京都みどりのサポーター協議会」の運営

地域で緑化を担う緑のボランティア団体（5 団体）と本協会が協働で緑化を進めるための組織「京都みどりのサポーター協議会」を運営した。

- ・参加団体 梅小路公園花と緑のサポーターの会（岩永忠正代表），中京・花とみどりの会（西村勇代表），NPO 法人科学技術による環境保全を考える会（吉田維之理事長），小野芙蓉会（谷中登美行代表），京都みどりクラブ（久武公一代表）
- ・会長＝西村勇，副会長＝岩永忠正

a 京都市御池通スポンサー花壇の沿道「サポーター」への支援

日常の手入れを担う事業所等の沿道の団体・個人であるサポーターの活動を補助・支援（点検，整姿，病虫害防除等）した。

b 参加団体と協力した地域イベントへの出展 ((4)ア e 参照)

(7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

ア 梅小路公園指定管理業務等の受託

良好な維持管理水準と安全安心を確保し，利用者の利便性，満足度を向上させるため，引き続き老朽施設修繕等を行うとともに，緑の館の特別清掃等を行った。

指定管理区域外の遊戯用電車（チンチン電車）の運行については，公園一体として行うべきであることから，29 年度も引き続き運行業務を京都市から受託した。

a 梅小路公園・施設管理者連絡会の開催

各公園施設の管理者が情報交換し，相互の事業の調整や協力，安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」を事務局として開催した。

- ・開催日（計4回） 第12回・4月25日，第13回・7月21日，第14回・10月24日，第15回1月30日
- ・構成 京都市建設局みどり政策推進室・南部みどり管理事務所（公園設置・管理者），オリックス水族館（株）（京都水族館），西日本旅客鉄道（株）京都支社，（公財）交通文化振興財団（京都鉄道博物館），（株）コラボ（グリーンハウスコラボ，梅小路パークカフェ），（株）京都駅観光デパート・（株）エーゲル（市電カフェ）・（株）立誠社（市電ショップ），（一財）京都市都市整備公社（駐車場，駐輪場），及び本協会（公園指定管理者）

イ 梅小路公園及び周辺エリアの活性化等に関する事業

「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト（京都・梅小路まちづくり推進協議会）」及び「京都駅西部エリアまちづくり協議会」（代表・森本幸裕・当協会理事長。商店街，自治連合会，企業，寺院，行政等の18団体で構成。）の構成メンバーとして，公園及び周辺地域のにぎわい創出の取組みに参画した。

a 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」関連受託事業等

① ルート環境整備業務等の受託

京都駅から公園に至るルートの環境整備を目的とする巡回，道路及びモニュメント等の清掃，案内，フラワースポット（コンテナ花壇，地植え花壇）の新設及び植替え・維持管理等を行った。

② 総合案内所（公園内2か所）の外国人対応

③ 「京の七夕」梅小路会場（8月4～13日）のイベント

オープニングイベントの「行燈づくり」の実施及び七夕飾りの笹の提供等

b 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」実施イベントへの参加

① 梅小路キッズアートキャンパス 11月3日，安寧小学校及び梅溪中学校跡地（下京区）での家族連れを対象とした，会員団体によるイベント。当協会は木の葉・草花のたたき染め体験コーナーを実施。

② 「京都・冬の光宴2018」（2月2日～14日） 2月3・10日，チンチン電車の夜間ライトアップと夜間特別運行を実施。

③ 合同清掃 京都駅から梅小路公園までの5つのルートを，会員団体が合同で清掃。毎月1回。

c 各種イベントの開催，展示会等の誘致

当協会の共催のほか，地域団体主催で当協会が積極的に協力するイベント，誘致する展示会等。29年度のおもなイベント（例）は次のとおり。

開催日	イベント名
毎月第1土曜日	梅小路手づくり市（5月，1月を除く。） ※協会との共催事業。
4月1，2日	京都さくらよさこい
4月29日	第89回京都中央メーデー
5月3，4日	京の花物語 in 梅小路公園（グリーンフェアとの同時開催）
5月3，4日	アースキャラバン（グリーンフェアとの同時開催）
5月6，7日	ビー・トライブ春の発表会（ダンス発表会）
5月28日	下京区民グラウンドゴルフ大会
7月23日	サマーフェスタ2017 夏の大感謝祭（JA京都市）
8月4～13日	京の七夕（梅小路公園会場）

9月9日	第21回梅小路公園ふれあいコンサート（下京少年補導委員会と近隣の学校）
9月17日	リベレーションフェスタ（人権擁護啓発の交流イベント）
9月23日	京都音楽博覧会 I N梅小路公園（第11回）（京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力）
9月30日, 10月1日	京都文化祭典市民ふれあいステージ（グリーンフェアとの同時開催）
10月7～9日	太陽と星空のサーカス（京都・梅小路みんながつながるプロジェクト）
10月21日	京都市ほほえみ広場 2017（障がいのある市民・ない市民の交流イベント）
10月28日	京都やんちゃフェスタ 2017
11月12日	下京区ふれ愛ひろば（下京区役所等）
2月2～14日	京都・冬の光宴（京都・梅小路みんながつながるプロジェクト）
3月3, 4日	第8回京都ソーデーウォーク（（一社）日本ウォーキング協会）
3月25, 26日	第4回梅小路フェス! Do You KYOTO?

d 芝生広場のオールシーズン緑化の継続及び「梅小路公園・冬芝を育てる会」の発足

前年度に「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」の支援を受け、芝生広場で行われたたウインターオーバーシード手法によるオールシーズン緑化の実験の実績を引き継ぎ、冬季においても緑の芝生の良さを感じながら利用していただくため、また、ボランティアベースで芝生の維持管理と活用を図るため、公園周辺の地域団体・企業等（京都青果合同(株)、タキイ種苗(株)、梅小路公園花と緑のサポーターの会、京都みどりクラブ、下京区体育振興会、梅小路小学校、本協会）及び地元学区団体の長の賛同を得て、本協会が事務局となって「梅小路公園・冬芝を育てる会」が発足した。地域ぐるみの取組みであることから「京都駅西部エリアまちづくり協議会」の補助金及び企業・団体等の協賛金を得て運営することができた。

- ・設立総会 9月7日 梅小路公園緑の館
- ・代表 本政和好（大内学区自治連合会会長）

ウ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の受託

子どもや家族連れが快適に過ごせるよう、良好な管理及びイベントの充実に努め、特に平日の利用の拡大に努めた。トイレ・親水施設等の小まめな清掃、夜間に侵入するシカの糞の除去、プレイパークゾーン法面の侵食の監視等に配慮した。

エ 多世代向け事業（プレイパーク、青空健康づくりプログラム等）

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園で、子どもの「遊び、学び、体験」の場を提供するプレイパーク事業を行った。平日にも乳幼児と保護者、平日放課後の小学生を対象としたプログラムや多世代が交流できるプログラムを行った。また、だれもが気軽にできる運動としてウォーキング教室等の健康づくりプログラムを実施した。

a 梅小路公園プレイパーク

「あそびのリーダー」となる大学生等のボランティアを中心に運営を組織し、毎月2回、定例の活動を実施した。季節にちなんだプログラムも数多く採り入れた。

- ・活動日 第2・第4土曜日

- ・実施回数 定例活動，特別企画及びグリーンフェア 計 26 回（28 年度は 26 回）
- ・参加者数（子ども・保護者） 計 4,403 人

b 梅小路公園ミニ・プレイパーク

幼児と保護者，または小学生を対象として，小人数による自然遊び等を行い，公園を「居場所」として感じていただく「ミニ・プレイパーク」を行った。

- ・活動日 原則第 2 木曜日の放課後及び第 2 金曜日の午前
- ・実施回数 22 回（28 年度は 20 回）
- ・参加者数 のべ 875 人

c 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動は試験的に平日にも開催したほか，工夫を凝らしたゲームイベント，季節の特別イベントも開催した。

① 通常プレイパーク 36 回（28 年度 35 回）

- ・活動日 原則日曜日 ・参加者数 のべ 6,810 人（28 年度 4,885 人）

② 特別イベント

- ・4 月 23 日 青空に泳ぐこいのぼりを見よう 48 人（こいのぼりのペイント）
（4 月 29 日～5 月 8 日 こいのぼり掲揚）
- ・5 月 5 日 ちびっこまつり（京都学生文化児童教化連絡協議会と共催）約 1,000 人
- ・5 月 20 日 左京・東山児童館学童保育所まつり（共催）約 1,000 人
- ・5 月 28 日 龍狐伝説（様々なミッションを用意し，クリアした子どもがカードを集めるオリジナルのゲームイベント）約 170 人
- ・6 月 4 日 親水空間オープニング企画・ふね作ってうかばせよう 82 人
- ・11 月 4 日 左京子どもふれあいカーニバル（左京区「人づくり」ネットワーク実行委員会との共催）約 1,900 人
- ・11 月 12 日 どんぐりまつり 約 1,100 人
- ・11 月 23 日 紙芝居講演（雨天による「昭和デー」中止のため単独実施）約 250 人
- ・11 月 26 日 子どもわくわくランド（人形劇等）約 250 人
- ・2 月 25 日 ミニ宝龍狐伝説 約 250 人

③ けむんぱクラブ(宝が池ミニプレイパーク)

平日に 4 歳児までの乳幼児と保護者（親子）を対象に，森の散歩やもの作り等を通じて，親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

- ・開催日 毎月第 2 木曜日，第 2 金曜日（2 クラス）
- ・実施回数 計 20 回 参加者数 のべ 597 人（28 年度は 27 回，のべ 650 人実施）

d 青空健康づくりプログラム（ウォーキング教室）

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして，梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を（公財）京都市健康づくり協会との提携により開催。運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム（運動器症候群，通称ロコモ）予防のメニューを多く採り入れた。

- ・講師 健康運動指導士・ヘルスケアトレーナー 松森賢二（京都市健康づくり協会）
- ・内容 ストレッチ，正しい歩き方指導，筋トレ，脳トレ，バランス運動，簡易体力測定，アンケート等
- ・季節ごとのテーマ

春～夏クール（4～7 月）	楽しく体を動かして，心身をリフレッシュさせよう！
夏～秋クール（8 月～11 月）	暑さ対策を充分に，無理なく体力アップを図ろう！

冬クール（12月～3月）	寒い時ほど、しっかり体を動かし代謝アップ！
--------------	-----------------------

- ・参加料 1クール 500円（回数により減額）
- ・開催日 第2・第4火曜日 計24回 のべ832人参加（28年度は24回。）

オ 公園ボランティアの運営、連携、支援

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園にかかわるボランティア活動を促進し、学生等の若い力も採り入れ、親しまれる公園づくりを進めた。梅小路公園では、花壇管理、ピオトープ運営、市電車両（総合案内所等）の保全を中心とし、宝が池公園子どもの楽園では、子どもの自然体験のサポートを中心として協力関係づくりと支援を行った

a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

平成19年以降、週2回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか、講習会の運営補助、公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

- ・会員数 平成29年度末現在45人
- ・実績 活動回数121回、参加人数のべ1,148人
- ・公園での他団体との交流 市立白河総合支援学校生徒との花壇の植付け作業、京都音楽博覧会への出展等
- ・「葵プロジェクト」への協力（上賀茂神社境内）

学校、企業等「里親」の協力でフタバアオイを保全する「葵畑」について、周辺の落葉を堆肥化し畑に還元する作業や、畑の拡張を手伝った。（5月6日）

b 梅小路公園内「花と緑のセラピーガーデン」活動

レイズドベッド等バリアフリーの観点で造られた通称「セラピーガーデン」の中で活動。身体障がい者、ひきこもり青年、アルコール依存症のリハビリ患者も受け入れ、他のボランティア等との作業を通じた交流も行っている。園芸セルフケア教室（(1)イa）とも連携。

- ・指導 花と緑の普及員 寺田裕美子（園芸療法士（米国HTR））
- ・第2・第4木曜日 計21回・63人

c 市電車両の保全管理ボランティア活動

市電車両（チンチン電車、市電ひろばの車両、及び総合案内所として活用している車両）について、「市電ひろば協会」及び「日本路面電車同好会関西支部」と覚書を交わし、清掃、点検、簡単な整備、保全管理のアドバイス、イベント時に運行していた市電の写真、模型やパーツの展示等の普及啓発にご協力をいただいている。

カ 社会体験活動等の受入れ

公園での社会体験活動、公園管理運営を研修するインターン学生の受入れを行った。

a 総合支援学校の社会体験活動の受入れ（梅小路公園）

市立白河総合支援学校、東山総合支援学校の生徒の社会体験活動を受け入れ、ボランティアとの協働作業を交え、管理活動を行っていただいた。

b インターンの受け入れ

- ・京都学園大バイオ環境学部学生6人 梅小路公園 8～9月の5日間ずつ
同 学生2人 宝が池公園子どもの楽園 8～9月の5日間ずつ
- ・京都精華大学人文学部学生2人 宝が池公園子どもの楽園 7～9月の10日間ずつ

キ 円山公園巡回・案内業務

国の名勝であり市内有数の観光地である円山公園の施設、樹木の枯損等の確認、サク

ラ開花（ホームページでの開花状況発信の試行）や紅葉の状況等を含む各種の問合せ対応、及び案内を行う業務を京都市から受託して実施した。また、祇園枝垂れ桜ライトアップ時のかがり火管理業務、ゴザ回収業務も継続して受託した。

(8) 広報・出版

ア 広報誌・パンフレット等の発行

a 京のみどり（季刊）の発行

市内各地の緑に親しみ歩いていただくためのマップを作成し、緑を守り育てる地域・団体の取組を伝える特集を継続。また、グリーンインフラとして注目される雨庭の概念と事例を紹介するシリーズ、園芸相談、プレイパーク等協会事業、京都市の公園緑地施策等の情報を紹介した。

・各号の特集の概要

第 83 号(夏号) 7 月発行	特集「都市を潤す歴史あるみどり 地域に根差した鎮守の森」【南・伏見区】(綾戸國中神社, 巖島神社, 菱妻神社, 久我神社, 神川神社, 羽束師神社等)
第 84 号(秋号) 10 月発行	特集「八瀬比叡山口を爽やかウォーキング 比叡山の麓で紅葉めぐり」【左京区】(紅葉めぐりウォーキング, 上高野, 八瀬, 蓮華寺等)
第 85 号(冬号) 12 月発行	特集「人の健康を守り, 暮らしを支える 薬用植物との出会い」【山科・伏見区】(日本新薬(株)山科植物資料館, 京都薬科大学薬用植物園)
第 86 号(春号) 3 月発行	特集「カメラ片手に鴨川・桜さんぽ」【上京・中京・左京・東山・下京区】(高野川, 賀茂川, 鴨川, 鴨川を美しくする会等)

- ・部数 各号 7,000 部
- ・配布場所・配布先 市政案内所, 区役所・支所, 市立図書館, 東京京都館, 公園愛護協力会, 全国の緑化団体等

b 「和の花」保全に関する小冊子の発行

希少になりつつある京都ゆかりの「和の花」の特徴や栽培方法, 関連する生活文化を伝える小冊子「和の花を育てる 1」(26 年 3 月発行, 国際花と緑の博覧会記念協会助成事業)からの続編として, 京都市発行の冊子「未来へつなごう! 京都の生物多様性」(平成 29 年度版, 6,000 部)の後半部に紙面をいただき, 和の花 3 種を紹介する「和の花を育てる 5」を掲載した。

- ・内容 (第 1 章) 京都市生物多様性プランに基づく京都市の取組, 団体・企業の活動 (第 2 章) ノカンゾウ, ホタルブクロ, ワレモコウの 3 種の特徴と関連文化, 京都の本草家・山本亡羊, 和の花保全ネットワークの団体・企業等の活動を紹介
- ・発行 京都市環境政策局環境企画部環境管理課
- ・体裁 A5 版, 38 ページ (第 2 章は 18~36 頁) ・配布引受け部数 2,200 部

イ ホームページによる発信

協会ホームページ(PC サイト), 梅小路公園用スマートフォンサイトを運営し, イベントや京都の緑の文化等のタイムリーな情報提供等に努めた。29 年度の年間アクセス件数は 28 年度に引き続き過去最高を更新した。

- ・アクセス件数 (Visits) 1,220,409 件 (28 年度比 20.6%増)

※Visits(訪問者数) 30 分以内の同一 IP をカウントしない, 実質のアクセス数の指標。

(9) 調査・情報収集

施設の適切な管理や情報発信の基礎資料とするためのモニタリング等の調査・情報収集を行った。

ア 梅小路公園いのちの森モニタリング調査

京都ビオトープ研究会による梅小路公園いのちの森のモニタリング活動への協力を行った。開園から21年を経過した森の今後20年のあり方として、択伐等による里山的管理の積極的な導入、希少な在来植物（和の花等）のレフュジア（待避地）としての活用等を盛り込んだ新たな管理方針を作成した。

イ 宝が池周辺の森林

宝が池公園子どもの楽園周辺で、京都府立大学、京都大学、京都学園大学及び地域団体・事業所等で構成する「宝が池の森」保全再生協議会と協力し、ナラ枯れ被害集中箇所の更新の推移や、シカ食害の影響等の観察を継続している。

ウ グリーンインフラ・雨庭の調査研究

グリーンインフラとして注目される雨庭の調査研究と一般への普及を目指す「京都雨庭研究会」を事務局として運営し、『京のみどり』等での発信、具体的な開発テーマを持った研究会開催等を行った。

- ・相国寺裏方丈庭園(上京区)の雨庭機能調査研究(九州産業大学, 京都学園大学との共同) 期間 29年5月～8月
- ・研究会会合 第1回 2月19日 テーマ「雨庭プランターの開発」
参加団体(順不同) (一社)京都造園建設業協会, インターソシア(同), 京都学園大学ランドスケープデザイン研究室, (特活)KES 環境機構, 京のアジェンダ 21 フォーラム, 京都駅ビル開発(株), 京都市建設局みどり政策推進室

1-2 (公2) 京都の庭園の保全管理, 庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 20,224 千円 (予算額 21,572 千円)

京都の庭園の保全管理, 庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的として, 庭園の保全管理業務, その中での庭園講座等への活用, 及び優れた庭園に関する情報発信等を行った。

ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い, 伝統と創生が調和した梅小路公園「朱雀の庭」について, 管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに, 新しい庭園の活用策としてイベント等を行った。

a 紅葉まつり

紅葉期間中の夜間活性化策として, 例年好評の「朱雀の庭」夜間ライトアップを15日間, 自主事業として実施した。周辺施設, ホテル等へのポスター, チラシ配布を行い, 京都水族館, 京都鉄道博物館の当日の入場チケットを持参された方に対し, 100円の割引を実施した。

- ・期間 11月18日～27日 (15日間) 入園者数 6,021人 (28年度 5,586人)

b 朱雀の花会

いけばなを気軽な形式で思い思いに生け、作品を庭園に置いて写真を撮るなど、花と庭の文化を楽しむイベント。祝日や平日の夜間に実施した。

11月11日，1月6日，3月23日（夜間）

イ 庭園情報の収集・発信

京都の優れた庭園の情報を収集し，広報誌「京のみどり」（季刊），30年2月にイメージを刷新したホームページ等において，実際に訪れていただくための発信を行った。また，海外に向けた日本庭園の情報発信のため，造園関係団体と協力して英文サイトのコンテンツ作成を進めた。

ウ 庭園文化講座等

日本庭園に関連する「緑の文化」，伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に，庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

a 庭園文化講座

- ・受講料 第1回 2,500円，第2回 2400円，第3回 2,600円（庭園拝観料含む。）
- ・受講者 のべ71人
- ・各回の実施内容

回	開催日	内 容	講師（敬称略）
第1回	1月31日	（座学）池泉の庭（見学） 銀閣寺	吉田昌弘
第2回	2月14日	（座学）枯山水の庭（見学）大徳寺 方丈庭園，大仙院	吉田昌弘
第3回	2月28日	（座学）池泉回遊式の庭（見学）平 安神宮神苑	吉田昌弘

（※28年度は4回実施。）

b 庭園ガイド活動

庭園ガイドボランティア（I(1)エ関連）による，朱雀の庭・いのちの森のガイド活動で，個人向け（原則月1回），団体向け（予約制）として実施した。

- ・ガイド実績 計12回（うち団体1回）実施 のべ案内人数78人（ガイド32人）

c （一社）日本造園修景協会第39回「伝統庭技研修会」研修会の企画運営への協力

庭師の講義，對龍山荘庭園，南禅寺方丈庭園，金地院庭園の解説。

開催日 11月30日，12月1日 参加者数 60人

エ 平安神宮の庭園景観検討会議（仮称）の運営

名勝平安神宮庭園の保存管理計画（26年度に本協会が策定業務を受託。）を実施に移すための庭園景観検討会議（仮称）の準備（資料収集等）を行った。

II 公園収益事業

決算額 107,021千円（予算額 103,216千円）

梅小路公園，宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業，自動販売機飲料販

売事業，国立京都迎賓館庭園の保安全管理業務の受託等を行い，その収益を公益目的事業，及び法人業務の財源とした。

ア 自動販売機飲料販売事業

公園便益施設として，指定管理受託している 2 公園のほか市内 20 公園に自動販売機を設置し，その全収益を公益目的事業に活用した。

イ 梅小路公園収益事業（貸室，遊戯用電車等）

遊戯用電車（狭軌 1 型のチンチン電車）の運行（京都市受託事業），広軌 1 型車両を静態展示する市電展示室の管理を行った。

ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業

子ども・家族向けイベントの充実等で利用増進に取り組んだが，繁忙シーズン・休日の天候不順から，利用実績（台数）は 28 年度を下回り，2,382 台減（7%減）となった。

エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について，内閣府からの受託事業として，管理保全指針に基づき，造園に携わった造園業者とともに，計画的な景観づくりに努めた。

・人材育成研修への活用 計 4 回のべ 111 人

造園技術者（京都府造園高等職業訓練校，京都府造園協同組合青年部）の刈込み・剪定研修，及び造園系大学学生の池清掃のボランティア作業（岐阜県立国際園芸アカデミー，東京農業大学，大阪府立大学）

Ⅲ 法人業務

決算額 4,054 千円 （予算額 3,059 千円）

自律した経営方針を掲げている京都市外郭団体中期経営計画（平成 30～32 年度），公益認定関連の法令，及び内外の情勢に対応し，法人業務を行った。

(1) 理事会・評議員会

理事会を 2 回，評議員会を 1 回開催した。

【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第 13 回理事会	29 年 6 月 8 日	平成 28 年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第 14 回理事会	30 年 3 月 27 日	平成 30 年度事業計画及び収支予算の件 資金運用規定の執行方針及び計画案の件

【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第 8 回評議員会	29 年 6 月 29 日	平成 28 年度収支決算の件 評議員選任の件

(2) 会計・税務・組織対応

公益認定の継続、公益目的事業の着実な遂行のための会計・税務・組織対応を引き続き進め、運営の透明性の確保に努めた。

ア 京都市監査への対応

京都市監査事務局による監査（出資団体監査、及び公の施設の指定管理者監査）が平成30年1月16日から2月2日まで、28年度以降の年度に係る組織運営・事業活動・財務全般を対象に行われた。公金収納事務に係る事務手続き、利用料金金額の承認申請手続き、概算払いに関する経理規程等の不備の指摘を受けたことから、是正について内部での情報共有を図った。（監査結果公表は30年5月1日。）

イ 公益目的事業比率

平成29年度は64.1%で、28年（62.0%）に対し、比率が高まった。

ウ 暴力団排除方針の明確化とコンプライアンス推進指針の改正

本協会は従来より暴力団又はこれらと密接な関係にある反社会勢力との取引を禁じてきたが、組織としての暴力団排除の姿勢を明確にするため、「職員就業規程」、「懲戒処分に関する指針」及びコンプライアンス推進指針を30年3月に改正し、暴力団等に属すること及び暴力団等との取引を禁ずる規定を明記した。

(3) 計画的な教育及び研修の実施による職員の資質と能力の向上

指定管理業務、都市緑化の新規事業等に対応し、利用者・市民目線での安全安心の確保、対応、顧客満足度の向上を図るため、専門分野の外部研修への派遣、マニュアル等の研修を行った。

- ・外部研修派遣11回、派遣人数のべ16人（京都市基本理念、遊具点検、労務・福利厚生、コンプライアンス推進、公園管理実務者会議、全国及び関西地区花と緑の相談所連絡会議、日本植物園協会技術講習会、在京滋植物園情報交換会等）

（28年度は派遣回数10回、派遣人数のべ13人）

(4) K E S 認証

諸般の事情により中断していたK E S（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）のSTEP1登録について、再取得を目指し各事務所で環境改善活動を実施し、30年2月に再取得した。

事業報告の附属明細書について

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。